

課題名 販路拡大の取組み及び営農管理システム導入を軸とした経営改善支援	人づくり	南丹農業改良普及センター
(1) 普及指導事項 (評価対象) 営農管理システム導入支援	(2) 普及指導対象 規模の大きい地域農業の担い手 (京丹波町 1 法人)	
(3) 活動内容と成果		
<令和3年度> ・導入した営農管理システム(Z-GIS)への作業入力は、従業員が同時に入力できないことが判明したため、スマホ専用アプリ「畑らく日記」の活用を提案し、作業入力の習慣化を図った。 <令和4年度> ・「Z-GIS」を活用して、ほ場地図を確認しながら紫ずきん各品種等の作付け及びは種・定植作業計画を策定し、計画に従って効率的に作業を行うことができた。 ・「Z-GIS」及び「畑らく日記」の入力講習会やシステム変更検討会を開催し、従業員の要望を踏まえて、より効率的に入力できるようなシステムの改善を図ったことにより、従業員は習慣的に作業入力ができるようになった。 ・従業員が6人から2人に減少し、アルバイトでカバーすることになったが、品種毎の収穫予定日の検討を行い、両システムを活用してアルバイトに対して適切に作業指示が行えた。これにより、効率的な収穫が可能となり、作業遅れで収穫を断念するほ場がなくなったことから、今年度の売上は昨年を上回る見込みとなった(前年対比125%)。		
(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> ①経験に頼ってきた営農活動が見える化することにより、情報や適期を共有し、売上げにも反映できたことは評価したい。システム導入の際、上手くいかなかった点について、他のアプリを導入して、より活用しやすい方法を探ろうとした点も評価できる。営農管理システムのアプリは日々進化しており、さらに他のものを検討していくことも大切である。	①「Z-GIS」は、管内のいくつかの集落営農組織(法人)でも導入され、ヘリ(ドローン)防除等のほ場特定等に使用されるなど、ほ場地図の視覚情報に優れる一方で、日々の作業入力にやや難があります。また、「畑らく日記」は、日々の作業の入力に利用しやすい反面、ほ場数が多いと管理しにくい問題点があります。 対象法人では、ほ場位置が視覚的に確認でき、かつ安価であったことから、「Z-GIS」を導入し、全筆の情報も入力されていることから、当面はこのシステムを活用される意向です。しかし、「Z-GIS」を補完する形で「畑らく日記」(フリーアプリ)の導入を提案したように、今後も経営主の意向を踏まえて、経営改善に最適なシステムがあれば、検討も必要と考えています。	

<p>②他の品目や農家・団体への横展開にも期待したい。</p> <p>③スマートフォンへの作業内容等の入力を営農管理システムに反映できるとかなり省力化できるので、アプリ間の連携方法も検討いただきたい。</p> <p>④経営者でなく従業員の視点では、労働環境の改善につながるか疑問を感じる。農業改良普及センターとして、経営改善や労働環境改善の視点から、システムの問題点、改善、機能の増加等をシステム制作者に提起されることを期待する。</p> <p>⑤ほ場が点在しているので、もう少し集積できないか？ 法定化された「人・農地プラン」での地域計画目標地図策定と連携した農地のブロック化に結びつけられたら、一層の効率化を図れるものと期待したい。</p>	<p>②システムを活用した経営改善を実現し、優良事例として他に普及できるよう引き続き支援してまいります。</p> <p>③当初、アプリと営農管理システムとの連携を図りましたが、アプリでは場名（番地）まで特定する必要があり、筆数が多すぎてうまく連携できませんでした。データの利活用場面を考えながら、必要に応じて連携方法について検討して行きたいと思います。</p> <p>④対象法人は、急激に規模拡大を遂げた経営体であり、その過程から経営主がほ場管理の采配（作業指示）を行っているため、以前から経営主の右腕となる従業員の育成が経営上の課題として支援を展開してきました。 このため、営農管理システムをツールとして営農管理状況の共有化を図り、従業員からも意見を反映して一緒に考える環境づくりを進めることにより、経営に参画できる従業員を育成し、経営と労働環境改善への支援をしてまいります。また、システム改善点等についても整理して、可能ならばメーカーへの提案をしていきたいと思います。</p> <p>⑤集落営農型の法人や担い手へのほ場集積のツールとして「Z-GIS」等のシステムは有効であると思われます。地域での話し合いにより、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画の策定を通じて、普及センターとしても農地の集約化に向けた取組を支援してまいります。</p>
--	---